

2023年度 日本頭蓋顎顔面外科学会

専門医認定試験

(お願い)

座席の指定はありません。

前方から間隔をあけて順に着席してください。

試験時間	17:05	～	17:30
------	-------	---	-------

1. 頬骨骨折に伴う症状として、
緊急手術を考慮すべき患者の訴えはどれか。

- a) 頬がしびれる
- b) 口が開きにくい
- c) 下口唇がしびれる
- d) 噛んだ感じがおかしい
- e) 目が痛くて開けられない

2. 顔面骨切り移動術について誤っているものを選べ。

- a) 口唇口蓋裂の上顎低形成に対して
LeFort I型骨切り移動術を適応した
- b) Binder症候群の鼻上顎複合体低形成に対して
LeFort II型骨切り移動術を適応した
- c) Crouzon症候群の眼窩-中顔面低形成改善に対して
LeFort III型骨切り移動術を適応した
- d) 頭蓋内圧亢進症状を伴う頭蓋縫合早期癒合症に対し
LeFort III型骨切り移動術を適応した
- e) 下顎前突症に対し上顎LeFort I型骨切り移動術と
下顎枝矢状分割骨切り術(SSRO)を適応した

3. 写真に示す小耳症について正しいものを選び。

- a) 右側に多く発生する
- b) 感音性難聴を呈する
- c) 耳甲介型小耳症である
- d) 手術時期は就学前が最適である
- e) 第IV, V, VI肋軟骨移植による
耳介再建術が標準的術式となっている



4. 頭蓋縫合早期癒合症について誤りを2つ選べ。
- a) 舟状頭は矢状縫合早期癒合により生じる
 - b) Apert症候群の発生にはTWIST遺伝子が関与する
 - c) 頭位性斜頭はラムダ縫合早期癒合によって生じる
 - d) 片側冠状縫合早期癒合症では健側の前額部が膨隆する
 - e) cloverleaf skullを呈する疾患にPfeiffer症候群がある

5. 口唇の再建に用いられる皮弁について誤りを1つ選べ。
- a) 上口唇人中部の全層欠損の再建ではAbbé flapが考慮される
 - b) 口角切除を伴う口唇全層欠損ではEstlander flapが良い適応である
 - c) 口唇欠損が大きい場合でもEstlander flapでは小口症になりにくい
 - d) 下口唇2/3以上の全層欠損では上口唇からのdouble cross lip flapが有用である
 - e) 赤唇の1/2までの欠損の再建にはtissue-expanding vermilion myocutaneous flapが良い適応である

6. 腹部から採取した脂肪組織を脂肪注入用に分離精製した。下記説明で誤りを1つ選べ。
- a) 晩期合併症として脂肪壊死に起因する石灰化がある
 - b) 採取した脂肪は体温よりやや高い温度に保ち速やかに注入する
 - c) 急性期合併症の1つに脂肪塞栓症があり緊急治療の対象となる
 - d) 関係学会の指針に基づく研修修了医師の登録が保険実施施設基準の1つである
 - e) 脂肪採取時のトウメセント液使用において、局所麻酔薬の過剰投与に注意する

7. 鼻形成術の移植材料として一般的でないものはどれか。

a) 筋膜

b) 肋軟骨

c) 膝軟骨

d) 耳介軟骨

e) 鼻中隔軟骨

8. 唇顎口蓋裂に関わることについて、正しいものはどれか。
- a) Furlow法は口唇形成の術式の1つである
 - b) 唇顎口蓋裂の出生頻度は、4000～5000人に1人である
 - c) 口蓋裂患者は、乳児期より高率に真珠腫性中耳炎を合併する
 - d) 口蓋帆張筋は、嚥下時に耳管膜様部を牽引して耳管咽頭口を開放する働きを有する
 - e) 粘膜下口蓋裂におけるCalnanの3徴とは、口蓋垂裂、硬口蓋後端の骨欠損、鼻咽腔閉鎖機能不全の3つである

9. 耳介の治療に関して誤っているものはどれか。

- a) 耳甲介前面の皮膚は、主に後耳介動脈により栄養されている
- b) 埋没耳では、主に上耳介筋と後耳介筋の異常が関与すると考えられている
- c) 耳垂欠損に対する再建時、耳甲介軟骨移植の併用により耳垂の形態を維持しやすい
- d) 耳輪の部分欠損に対する再建法として、Antiaの報告した chondrocutaneous advancement flapが有名である
- e) Mustarde法は、立ち耳に対する術式の一つであり、良好な対輪形態が形成できる一方、再発率が高いとされる

10. 2か月の女児、眼窩部に腫瘍型の乳児血管腫があり
開瞼が瞼裂縦径で1mmほどとなっている。
第一選択の治療法はどれか。

- a) ステロイド局注
- b) 色素レーザー照射
- c) ラパマイシンの内服
- d) プロプラノロール内服
- e) ドライアイス圧抵療法